

大学生SDGs座談会

独立行政法人環境再生保全機構は、
全国大学生環境活動コンテスト (ecocon) を
共催しています

2021年2月2日 (火)、全国ユース環境ネットワークは全国大学生環境活動コンテスト (ecocon) の協力で、「オンライン大学生SDGs座談会」を開催しました。

大学生からは、今年度の総括として多くの活発な発言があり、交流ができました。



概要 大学生SDGs座談会

主催 独立行政法人環境再生保全機構
共催 全国大学生環境活動コンテスト実行委員会

2019年に発生した新型コロナウイルス感染症の感染拡大は、大学の生活にも大きな影響を与えた。それにより新しい生活への移り変わりを余儀なくされる一方、持続可能な社会において大学生の活動に「新たな日常・価値観」が生まれ、その価値観の実現に向けた新しい活動や取組を実施している。このような状況の変化における大学生の環境活動の実施状況を把握するため、全国各地の環境活動団体を対象に実態調査を行い、その調査結果をもとに座談会形式でコロナ禍における学生活動とSDGsについて議論・意見交換を行った。

参加団体

▶環境・国際団体Deco

サルベージ・レクチャーミーティング・分別推進プロジェクト・あまの傘 (忘れられた傘を回収して必要な人に無償で使ってもらう活動)、部員それぞれが興・ごみ拾い

▶福岡工業大学 社会環境学部 エコFIT

校内のペットボトルキャップ回収、使い回しのエコバッグ回収、校外でNPO法人団体と連携して、他大学と共同で清掃活動やイベントのゴミ分別のブースの運営などの活動

▶新潟環境ネットワーク N-econet

環境啓発活動、県内の学生環境団体のネットワーク構築、団体メンバーのスキルアップ

▶学生団体 em factory

児童・保育園向け (対面式)、高校生向け (WEB方式)、ごみ拾い活動

座談会

全国各地の学生環境活動団体にお集まりいただき、自身の団体の活動の課題について共有し、新型コロナウイルス感染症が拡大する状況下における「SDGs」や「持続可能な社会」について意見交換を行った。

●環境活動の課題について

高橋 活動メンバーが足りなく、活動内容を変更している団体が多いと感じた。つながりのある団体と連絡が取れず、活動規模は縮小したが、オンラインを活用することで短いスパンでの活動ができるようになった。対面の楽しさ、活動の魅力を伝えきれないことが課題点。OBとオンラインの交流会もしており、メンバー間のスキルアップにもつながると実感している。

松田 Zoom等を活用しているが、新規メンバーがお互いどのような人かを深く知れないことが課題。一方で活動のための移動時間等が短縮され、参加がしやすくなったことでメンバーの定着にはつながった。都外からもメンバーが集まったのはオンラインならではの感覚だ。

反町 昨年新規メンバーが加入したが、一度も対面することなく引退した。主に現地で活動する団体であるが、オンライン会議しかできなかったため活動規模が縮小してしまった。

久富 コロナの影響でイベントが全てなくなり、団体の活動もなくなった。先輩とのコミュニケーションがうまくできず引継ぎもうまくできなかった。短いスパンで活動し部員を誘いやすくすることは魅力と感じる。

森 ミーティングが業務報告のようになるなど、活動自体が仕事ようになってしまう。オンラインとなったことで、メンバーとの外食や、雑談などの学生団体らしい交流の時間が減ってしまい、学生らしい活動が難しくなってきたと感じている。

稲月 新入生は人との交流を求めている。団体に所属することで友達もでき、環境のこと知ることできる。その気づきをSNSで発信していきたい。

●SDGsや持続可能な社会について

森 SDGsの掲げた目標を2030年に達成するためにはみんなで協力することが大事。環境団体所属の学生と、環境に興味がない学生とでは環境に関する情報の格差がある。TikTokでランダムにコンテンツが出てくるように、不特定多数の人の目に環境に関連した情報が触れるようになると、より多くの人に情報が届くのではないかと感じる。

新藤 オンライン化が進む中でSNSは重要。環境に興味がない人に興味を持たせるため、環境に関する商品のレビューを出したらどうか。環境に関わる一歩になるのではないかと感じる。

高橋 ラジオを通して、おしゃれと環境をコンセプトに情報を発信している。環境活動があまり華々しくなく、泥臭いイメージもある。オンラインツールを活用し、工夫して発信することが重要。

松田 3年間活動し、環境活動はハードルが高いと思われると感じた。SDGsの達成は生活の中でちょっとしたことを変えるだけで関われるので、そのことを多くの人に発信したい。

